

## 出エジ2 出エジプト記2章1節～25節

### 「解放者の準備」

#### イントロ：

##### 1. 文脈の確認

- (1) 神はアブラハム、イサク、ヤコブに約束された。
  - ①イスラエルの民は、カナンの地で自由な民として生きるようになる。
  - ②イスラエルの民は、全世界の人々を祝福するようになる。
- (2) イスラエルの民は、エジプトで約400年間奴隷となっている。
  - ①過酷な労働
  - ②助産婦を使った男児の抹殺
  - ③全国民を動員した反ユダヤ主義政策
- (3) 神はご自身のマニフェストを実行されるのか。

##### 2. モーセの登場

- (1) 解放者の準備
- (2) キリストの型
  - ①預言者
  - ②解放者
  - ③律法の付与者
  - ④仲介者

##### 3. メッセージのアウトライン

- (1) 神の計画が動き始める。(2：1～10)
- (2) 人間の計画が割り込んでくる。(2：11～22)
- (3) そして、オリーブの木は残った(2：23～25)
  - ①江戸時代前期に仙台藩(60万石)で起きた「伊達騒動」
  - ②山本周五郎の小説『樅ノ木は残った』
  - ③パウロは、ロマ11章でオリーブの木を比喩的に使っている。

##### 4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 物語の底流にあるもの
- (2) 神の時
- (3) 神の方法

このメッセージは、私たち自身の物語を学ぶためのものである。

## I. 神の計画が動き始める（2：1～10）

### 1. モーセの両親

- (1) レビ族のアムラムとヨケベデ（出6：20）
- (2) 甥と叔母の結婚である。
- (3) モーセの律法では近親婚は禁止される。

### 2. モーセの誕生

- (1) すでにアロンとミリアムは生まれていた。
- (2) 「女はみごもって、男の子を産んだが、そのかわいいのを見て、三か月の間その子を隠しておいた」

①「かわいい」はヘブル語で「トブ」。

\*使7：20「このようなときに、モーセが生まれたのです。彼は神の目になった、かわいらしい子で、三か月の間、父の家で育てられましたが、」

②両親は霊的な目で我が子を眺め、それが特別な子であることを感じた。

\*ヘブ11：23「信仰によって、モーセは生まれてから、両親によって三か月の間隠されていました。彼らはその子の美しいのを見たからです。彼らは王の命令をも恐れませんでした」

### 3. モーセをナイル川に浮かべる

- (1) 隠しきれなくなった。
- (2) パピルス製のかご
  - ①エジプトの言葉 「テイバー」
  - ②ノアの箱舟を指す言葉
  - ③防水加工を施した（瀝青と樹脂）。
- (4) 「ナイルの岸の葦の茂みの中に置いた」
  - ①恐らくパロの娘が水浴びに来る辺りであろう。
- (5) 姉のミリアムは遠くから見守っていた。

### 4. パロの娘の登場

- (1) ナイル川は女神と考えられていた（インドのガンジス川と同じ）
  - ①命を与える川

②癒しを与える川

(2)「パロの娘が水浴びをしようとナイルに降りて来た」

①朝の祈りを終えようとしていた。

(3)「彼女は葦の茂みにかごがあるのを見、はしためをやって、それを取って来させた」

①ナイルに抱かれた赤子を見つけたのは、ただ事ではないと理解したのである。

②泣いている赤子を不憫に思った。

③「これはきっとヘブル人の子どもです」

\*ヘブル人とエジプト人とは、割礼の方法が異なった。

5. ミリアムの機転

(1) ヘブル人の乳母を紹介した。

(2)「そうしておくれ」

(3) 母ヨケベデは、パロの娘から賃金をもらってモーセを育てた。

(4) パロの娘は欺かれたのではない。知っていてそうしたのである。

①この2人の女性の間には、暗黙の了解がある。

②神の摂理が働いている。

6. モーセの命名

(1) 5歳前後でパロの娘のもとに連れて行かれ、王女の養子となる。

(2) モーセと命名される。

①エジプト第18王朝のパロの名前 アフモス、トゥトモスなどモスが付く。

②「モス」とは「子を産む」という意味である。ナイルが産んだ子。

③エジプトのパロの名は、偶像の名前にモスが付いている。

④モーセも「○○モス」と呼ばれたはずである。

(3) ユダヤ人による解釈

①ヘブル語では、「モシェ」。

②「マシャ」は引き上げる。

7. 宮殿で育つモーセ

(1) パロの娘とは、トゥトモス1世の娘ハトシェプストである。

①後に、義理の息子トゥトモス3世とともにエジプトを共同統治することになる。

②男装して統治した(正式な王ではないので統治は存在しない)。

③彼女のミイラは、2007年6月ザヒ・ハワス博士らのチームによって特定された。

(2) モーセが受けた教育

- ①パロは出来る限り多くの子を産み、教育を施し、軍事、管理に当たさせた。
- ②モーセもまた同様の教育を受けたことは間違いないだろう。
- (3) 反ユダヤ主義政策が、解放者を育てるという結果につながった。

## II. 人間の計画が割り込んでくる。(2:11~22)

### 1. モーセの自己認識

- (1) ヘブル人であるという自覚を失っていなかった。
  - ①当時40歳(使7:23)
  - ②幼児教育の重要性
- (2) ヘブル人たちが不当に苦しめられていることを知っていた。
- (3) モーセは、責任を追い込むタイプの人間である。

### 2. 解放者としての振る舞い

- (1) ひとりのヘブル人を助けるために、あるエジプト人を打ち殺した。
- (2) ヘブル人同志の争いの仲裁者となる。
- (3) しかし、ヘブル人たちはモーセを解放者として認めなかった。
  - ①将来、ヘブル人たちがモーセに示すようになる態度を予感させる。
- (4) さらに、彼がエジプト人を殺したことをパロに密告した。
- (5) パロはモーセを殺そうとするが、モーセはミデヤンの地に逃れた。
  - ①アカバ湾の東側、アラビア半島の西端にある地
  - ②逃亡者には好都合な地

### 3. 7人の娘を助けるモーセ

- (1) モーセの性質は変わらない。
- (2) 父は、そのような優秀な男性を見逃さない。
  - ①砂漠での「もてなし」の精神 創18:1~8
  - ②今日でもこの地域の人々は同じ「もてなし」を実行している。
- (3) 祭司の名は、レウエル(神の友という意味)。
  - ①出3:1には、イテロという名が出てくる。
  - ②イテロはタイトルであり、レウエルは固有名詞である。
- (4) 彼は、偶像礼拝に陥っていない祭司であろう。

出18:12「モーセのしゅうとイテロは、全焼のいけにえと神へのいけにえを持って来たので、アロンは、モーセのしゅうとともに神の前で食事をするために、イスラエルのすべての長老たちといっしょにやって来た」

#### 4. ミデヤンでの40年

- (1) チッポラと結婚
- (2) 息子にゲルショムという名を付ける。
  - ①「私は外国にいる寄留者だ」(何の権利もない)
  - ②へブル人の解放者となる夢を放棄していた。
- (3) 羊飼いととしての経験を積む。
  - ①荒野でイスラエルの民を導くための神からの訓練
  - ②エジプトでの教育は知的なもの、ミデヤンでの教育は実践的なもの。

### Ⅲ. そして、オリーブの木は残った(2:23~25)

#### 1. 「エジプトの王は死んだ」

- (1) ハトシェプストはすでに死んでいる。
- (2) 義理の息子トゥトモス3世が統治していた。
- (3) その彼がモーセの命を狙っていたが、彼は死んだ。
- (4) 新しいパロは、アメンホテプ2世である。
  - ①反ユダヤ主義政策を続行した。
  - ②彼が出エジプトの時のパロである。

#### 2. 神が行動を起こす。

- (1) 「聞かれた」
- (2) 「思い起こされた」
- (3) 「ご覧になった」
- (4) 「みこころを留められた」

#### 3. 神が行動を起こす2つの理由

- (1) イスラエルの民の悲惨な姿をご覧になった。
  - ①神は憐み深い方
  - ②マタ9:35~38
- (2) アブラハム、イサク、ヤコブとの契約を思い起こされた。
  - ①これはアブラハム契約と呼ばれるものである。
  - ②これが、パウロがロマ11章で言うオリーブの木である。
  - ③忘れていたわけではなく、行動を起こす時が来たという意味である。

結論：このメッセージは、私たち自身の物語を学ぶためのものである。

### 1. 物語の底流にあるもの

- (1) 創12章以来私たちが追いかけて来たアブラハム契約である。
- (2) ロマ11章で論じられていることは、アブラハム契約のことである。
  - ①オリーブの木の幹は、アブラハム契約
  - ②折られた栽培種の枝は、イスラエルの民
  - ③接木された野生種の枝は、異邦人クリスチャン
  - ④やがて折られた枝は元の幹に接木されるようになる。
- (3) 神の計画は必ず成就するという前提で、自分の物語を作り上げることが重要。

### 2. 神の時

- (1) モーセの勇気と信仰と行動力には敬意を表する。
  - ①へブ11：24～26
- (2) しかし彼は、神の時を読み間違えていた。
  - ①挫折の経験
  - ②40年の荒野での訓練
- (3) 自分が人生のどの段階にいるかを見極める目が大切。
- (3) 今の時代性に目を留める。
  - ①1989年11月9日のベルリンの壁崩壊
  - ②20世紀は、1914年の第一次世界大戦で始まり、ベルリンの壁崩壊で終わった。
  - ③それ以降は、21世紀型世界が出現した。
  - ④多極化と民族紛争、地域紛争の時代
  - ⑤国境を越えた人、物、金の移動。「渡り鳥の時代」
  - ⑥アジアの時代
  - ⑦「自立と共生」がキーワードである。
  - ⑧「ネットワーキング」「ブリッジビルダー」

### 3. 神の方法

- (1) エジプト人をひとりずつ殺していっても、ヘブル人の解放にはつながらない。
- (2) 神の方法によらなければ、真の解放は来ない。
- (3) 神のことばを理解し、それを語るこそ、今も昔も神の方法である。
  - ①物語の底流を語れ。
  - ②イスラエルの民を物語の中心に据えて語れ（彼らは神の方法である）。
  - ③真の出エジプトはイエス・キリストにおいて成就したことを語れ。